血だまり

▶使用器具　▶評価ポイント

大裂傷(38ページ参照)や患部を切開した傷口からあふれ出た血を吸引し、その下にある患部を見えるようにする術式。吸引時は「Ok」と表示されるまで続ける必要がある。血だまりは一定時間放置すると増殖し、範囲が広がる。



血だまりが発生しているあいだは、その下にある患部の処置はできない。患部の処置を行なうまえに吸引しよう。

【手　順】

1 ドレーン　血を吸い取る

血だまり裂傷

▶使用器具　▶評価ポイント ○

裂傷の上に血だまりが発生している病巣の術式。おもに内出血(39ページ参照)や出血(43ページ参照)が悪化すると発生する傷で、血だまりを吸引後に傷口を縫合すれば処置完了となる。評価ポイントは裂傷と同じで傷口の縫いかたで決まる。縫合時の処置を注意して行ないたい。



内出血から発生した場合のみ、吸引した血だまりが一定時間で再発する。縫合を終えるまで一気に処置をしたい。

【手　順】

1 ドレーン　血を吸い取る
2 針と糸　傷を縫う

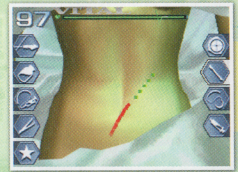
評価ポイントに関わる要素

- 縫合線の長さが規定以上あり、左右の幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある

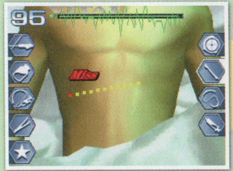
切開

▶使用器具　▶評価ポイント ○

一部のエピソードを除き、ほぼすべての手術で最初に行なう基本術式。切開を行なう部分にガイドラインが表示されるので、まずはそれに沿ってヒールゼリーによる消毒(黄色から緑色に変える)を施す必要がある。その後のメスの処置を正しく行なったとしても、ガイドラインに塗り忘れがあると「Good」、まったく塗らなかった場合は「Bad」評価になる。メスで患部を切り開く際は、ガイドライン上のすべての点を端から端までなぞれば成功。ガイドラインから大きく外れたり、途中で作業を終了すると「Miss」となり、メスを入れる手順がやり直しになる。ちなみに、ガイドラインをなぞるときは、端のどちら側からメスを入れても問題ない。ほとんどの患者はバイタルが上限値よりも低下した状態で手術室に運ばれる。切開部の消毒を終えたら、バイタルを最大値まで回復させてから切開したほうがいいだろう。



切開中もバイタルが低下していく。ゆっくりガイドラインをなぞれば確実だが、患者に負担をかけてしまう。



消毒を省いて切開することも可能だが、少しでもガイドラインから外れてしまうと「Miss」になるうえ、評価も下がる。

【手　順】

1 ヒールゼリー　切開口を消毒する
2 メス　ガイドラインに沿ってメスを入れる

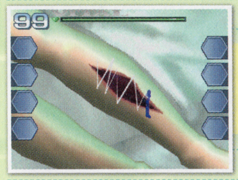
評価ポイントに関わる要素

- ガイドラインを完全に消毒する
- 切開時にミスをしない

閉創

▶使用器具　▶評価ポイント ○

臓器内の治療を終えたあと、術野を閉じる際に行なう処置。初めに針と糸によって切開部の縫合を行なうのだが、縫合後に最初の評価表示がある。評価ポイントは裂傷の縫合と同じだが、閉創では縫合が不完全だったり、途中で縫合を中断すると「Miss」となってやり直しになるうえ、その後の評価に影響する。縫合が終われば縫合痕の止血をして保護テープを張れば処置完了だ。止血の評価は保護テープを張ったあとの評価に影響するので、止血は「Ok」と表示されるまで行なおう。このときヒールゼリーの塗り忘れがあると「Good」　まったく塗らなかった場合は「Bad」になる。保護テープを張るときは「保護テープの長さ」、「張った角度が縫合痕と一致しているか」の2点に注意すること。縫合痕を止血し、保護テープの評価がパーフェクトなら「Cool」、許容範囲ならば「Good」、少しでもずれていたり、テーピングの始点や終点が縫合痕の途中であった場合は「Bad」評価となる。また、縫合痕から大きく外れていると「Miss」となり、評価が下がるうえ、テーピングのやり直しになる。



裂傷時の縫合よりも糸を長めに使い、折り返しの回数を多くしよう。途中で手を止めることのないようにしたい。



ミスなく進めるために縫合痕の少し上から保護テープを張っておき、完全に縫合痕を覆うように最後まで張ろう。

評価ポイントに関わる要素

- 縫合時にミスをしない
- 縫合線の長さが規定以上あり、左右幅が正確
- 縫合の折り返しの回数が規定以上ある
- 閉創部を完全に止血する
- 保護テープの長さ、傷に対する角度が正確
- 保護テープの張り直しがない

【手　順】

1 針と糸　術野を閉じる
2 ヒールゼリー　縫合痕に塗る
3 保護テープ　閉創部に張る

異物除去 I

▶使用器具　▶評価ポイント ○

刺さったガラス片や骨片を回収して傷痕を治療する術式。ピンセットで異物をつかんで引き抜いたあと、画面右側に表示される回収トレイへ運ぶ。その後、残った傷痕にヒールゼリーを塗れば処置完了だ。

異物除去Iでの評価には、「抜いた角度」、「抜きミス回数」、「異物を落とした回数」の3つが影響し、1回でも「Miss」があると「Bad」になる。角度は、異物が刺さっている傷に対してほぼ垂直(85～95度)で抜けば「Cool」、垂直に近い角度(80～84、96～100度)なら「Good」になり、角度が悪いと「Miss」でやり直しになる。なお、抜いた異物は、回収トレイまで移動させてから離すこと。異物を術野に落とすと「Miss」になり、異物はもとの場所に刺さってやり直しになるうえ、評価は「Bad」になる。



少しでも角度がずれると、トレイに置いたときに表示される評価が「Good」になる。処置法は簡単だが慎重にやろう。



骨片は長さがまちまちのため、刺さっている部分が均等ではない。完全に抜けきるまで垂直にピンセットを動かそう。

【手　順】

1 ピンセット　異物を引き抜き、トレイへ運ぶ
2 ヒールゼリー　傷口に塗る

評価ポイントに関わる要素

- 正しい角度で異物を引き抜く
- 引き抜いた異物を落とさずにトレイまで運ぶ